



西脇にはイチゴがある

西脇市ではイチゴの特産品化と観光誘客の増加を目的として、平成26年度から「スイーツファクトリー支援事業」を実施し、イチゴ農家の育成に取り組んでいます。全国的に農業従業者の減少や高齢化が進む中で、本事業を通じて西脇市へUターン・移住した2人の研修生が2年間の研修を終えて、イチゴ農家として独立します。そこで、研修生らの農業経営に対する思いをお伝えするとともに、西脇市の取り組みについて特集します。

■問合せ 農林振興課（市役所内線323）

農業の現状

国内の農家数は減少傾向にあり、平成17年に約285万戸あった農家数は、平成27年には約216万戸に減っています（農林水産省「農業センサス」による）。西脇市においても、平成17年の1,661戸と比べて、平成27年には1,276戸となり、23.2%減少しています。

また、平成17年の調査では、全国の農業従業者の平均年齢が63.2歳であるのに対して、平成27年には66.4歳に上昇しており、農業従業者の高齢化が進んでいます。兵庫県においても、平成17年は64.8歳でしたが、平成27年には68.9歳まで上昇しており、県内でも農業従業者の高齢化が

深刻化していることが分かります。さらに、後継者も不足していることから、農家は減少し続けています。

増える若い就農者

全国で農家の高齢化や後継者不足が進む一方、40歳未満の新規就農者数は、平成18年の14,740人から平成27年には16,100人へと増加しています。昨年度に神戸市で新規就農希望者を対象に開催された「就農希望者向けセミナー・相談会」（一般社団法人兵庫県農業会議など主催）では、来場者に若者の姿が多く見受けられ、出展した本市のブースにも多くの若手就農希望者が訪れました。農業は若い方にとって関心が高くなりつつあります。

新規就農者を支援

新たに農業を志す方からは、「農地の借り方や取得方法、どのような作物を栽培して農業を営むすればいいかわからず不安」といった声が聞かれます。

市では、限られた面積でも安定した収益を上げることができ、経営モデルが確立している「イチゴ」に着目して、若手就農希望者の育成に取り組む「スイーツファクトリー支援事業」を進めています。本事業では、就農希望者が研

修生となり、認定農業者や兵庫県加西農業改良普及センターの職員からイチゴ栽培や経営ノウハウを学びます。最長2年間の研修を経て、スムーズに就農できることが大きなメリットです。

イチゴは他の作物に比べて、▽面積に対して収穫量が多い▽秀品率（＝収穫量全体に対する商品価値がある良品の割合）が高いことなどが特徴です。農産物直売所へ出荷するなど、一定の出荷先が見込めるとともに、観光農園を経営することで、より高い収益につなげることができます。

スイーツファクトリー支援事業概要

- ◆研修期間 最長2年間
- ◆研修場所
研修用ビニールハウス（西脇市落方町）
- ◆研修講師
 - ・篠田いちご園
 - ・兵庫県加西農業改良普及センター
- ◆研修費用 無料
 - ※栽培にかかる種苗費、農薬代、肥料代、光熱水費等は自己負担になります。
- ◆応募条件（抜粋）
 - ・研修開始時から西脇市内に住み、研修終了後は西脇市内で就農すること。
 - ・当面の生活資金が準備できること。
- ◆その他
 - ・現在は5名が研修中。そのうち2名が研修を終え、10月に独立します。

研修生の“声”

今年9月に「スイーツファクトリー支援事業」で2年間の研修を終え、10月から独立される佐藤慶明さんと酒井良宗さん。今年8月からは、田村友樹さん、谷山詩温さん、谷山準さんの3名の方が研修を受けています。

5名の研修生に就農を決めた理由や市の研修制度の魅力などについて、お話を伺いました。



(左から) 今年10月に独立する佐藤さんと酒井さん



(左から) 8月から研修を受ける谷山(準)さん、谷山(詩)さん、田村さん

―市の事業で就農しようと思っただけは、10年ほど前から農業に興味があり、就農セミナーに参加していました。兵庫県が主催するセミナーで制度を知り、西脇市での就農を決めました。

酒井さん 研修生になる前にお客さんとして「篠田いちご園」を訪ねたことがあり、篠田さんと話しているうちに、イチゴ農園を経営したいと思うようになりました。制度を活用して、西脇市での就農とUターンを決めました。

田村さん 以前は神戸市内の果樹園に就職していました。果樹園で独立を目指して、県

の農業研修センターを訪ねたときに、以前から興味があったイチゴの高設栽培の研修を西脇市で受けられると知り、申し込みました。

谷山さん 私たち兄弟はIT関係の会社に就職していました。「食」に関心があったので、いつか就農したいと思っていました。西脇市の研修制度を知りました。研修生となる前に西脇市を訪れ、とても住みやすい印象を受けたので、西脇市で就農しようと思いました。

―酒井さんと佐藤さんは9月で研修が終わります。2年間の研修はどうでしたか。

酒井さん 1年目に栽培のノ

ウハウを学び、2年目には自分なりに試行錯誤を繰り返して研修を受けました。研修を2年間受けるので、さまざまな知識を得ることができます。また、研修施設のビニールハウスが無償で借りられることも大きいです。研修中の収益が全て自分のものになることも魅力的です。

佐藤さん 困ったとき、篠田さんや県加西農業改良普及センターの職員の方に、すぐ相談ができるサポート体制が整っているのが、とても助かりました。すぐそばに同じ研修生の仲間がいたことも励みになりました。

―佐藤さんと酒井さんは、どんな農家を目指していますか。

2年間の研修では、研修生がイチゴ農家として独立できるように、県加西農業改良普及センターの職員とともにイチゴの栽培技術と農業経営のノウハウを教えています。今後も研修生らとともに、西脇市産イチゴのブランド化を進めたいです。



研修生の講師を務める篠田重一さん

佐藤さん 篠田さんのように消費者の方に名前と顔を覚えてもらえるように頑張りたいです。

酒井さん 高品質でブランド力のある西脇市産のイチゴを栽培し、消費者の方に喜んでいただきたいです。イチゴ農園で、市内にたくさんのお客を呼び込みたいです。



スイーツファクトリー支援事業の研修生たちに栽培方法を指導する篠田重一さん(右から3番目)

移住して就農へ

スイーツファクトリー支援事業では、研修中に必要な経費の一部を市が負担するため、市内にお住いの方だけでなく、西脇市へのU・I・Jターン希望者も応募しやすいのが特徴です。市は自治会の協力を得ながら就農しやすい環境を整えるなど、研修生の就農をサポートしています。

また、研修を受けることで、就農の際に各種補助制度を活用することができ、就農計画を立てやすくなります。

イチゴの六次産業化

六次産業化とは、農業などの第一次産業に関わる方が、自ら食品加工(第二次産業)から流通・サービス(第三次産業)までを手掛けることです。

ジャムやお菓子などの加工品に向いている「イチゴ」の特徴を生かし、農家が加工品の製造・販売に取り組むことを期待しています。このような六次産業化によって、イチゴを収穫できる限られた期間だけでなく、年間を通して収益を上げることができるよう

になります。

活気あるまちへ

市では今後、西脇市産のイチゴを楽しむことができる機会を増やしたいと考えています。市内の飲食店などで、西脇市産のイチゴを使ったお菓子やスイーツを提供するとともに、「観光イチゴ園」として、観光と連携したイチゴのPRを進め、市外からの誘客を図っていきます。

西脇市産イチゴの認知度とブランド力を向上させることで、「イチゴと言えば、西脇」と呼ばれる産地を目指し、にぎわいあふれるまちづくりへつなげていきます。



研修生が栽培した西脇市産のイチゴ